

## 施工 演習 1

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

---

### ウラ模試 2

[No.5] 地盤調査に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 平板載荷試験において、試験地盤面については、直径 30cm の円形の載荷板を中心に 2.0m×2.5m の範囲を水平に整地した。
2. 軟弱粘性土の一軸圧縮試験に、固定ピストン式シンウォールサンプラーで採取した試料を用いることとした。
3. 機械の設置等によりボーリング孔が鉛直でない場合、N 値が小さめに測定されることがある。
4. 地盤の振動特性の調査において、常時微動測定については、交通機関等による影響の少ない時間帯に実施した。

### ウラ模試 1

[No.7] 土工事及び山留め工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 砂質地盤の掘削工事において、ボーリングの発生する可能性が高いと判断したので、動水勾配を減らすため、止水性のある山留め壁の根入れ長を延長した。
2. 掘削工事において、盤ぶくれの発生が予測されたので、止水性のあるソイルセメント壁を、盤ぶくれの原因となる被圧滞水層の砂礫層下の不透水層（難透水層）に延長して根入れした。
3. 山留め支保工において、火打材を用いない切ばりに作用する軸力の計測管理に当たっては、盤圧計を切ばりの中央部に設置する。
4. 腹起しを支持するブラケットについては、斜めのアンカーを用いる場合その鉛直分力を考慮して設置する。

### ウラ模試 1

[No.8] 杭工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. セメントミルク工法による既製コンクリート杭工事において、掘削終了後のアースオーガーの引上げは、吸引現象により負圧が発生しないように、できるだけゆっくり行った。
2. 打込み工法による既製コンクリート杭工事において、打込み完了後の杭頭の水平方向の施工精度の目安については、杭径の 1/4 以下、かつ、100mm 以下とした。
3. 場所打ちコンクリート杭工事において、鉄筋かごの主筋間隔が 10cm 以下になると、コンクリートの充填性が悪くなるので、主筋を 2 本重ねて配置し、適切な主筋間隔を確保した。
4. 場所打ちコンクリート杭工事において、安定液中に打ち込む杭に使用するコンクリートの単位セメント量については、310 kg/m<sup>3</sup>とした。

### ウラ模試 2

[No.7] 杭工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭の鉄筋かごの組立てにおいて、補強リングについては、主筋に断面欠損を生じさせないように注意して、堅固に溶接した。
2. セメントミルク工法において、杭の自重だけでは沈設が困難な場合は、杭の中空部に水をいれて重量を増すことがある。
3. プレボーリング工法の施工精度を確保するためには、土質が変わっても掘削速度を変えないことが必要である。
4. 場所打ちコンクリート杭の施工において、拡底杭については、超音波孔壁測定により拡底形状を確認した。